



CHARM

報道関係各位

PRESS RELEASE

2023年3月28日

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション

## アートギャラリーホームの取り組み 第3回アートプログラム「ステンシルの小箱作りワークショップ」を 2023年2月7日（火）と2月22日（水）に開催

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション（本社：大阪府大阪市 / 代表取締役会長 兼 社長：下村隆彦）は企業理念である「豊かで実りある高齢社会」実現のため、2014年より若手アーティスト支援を目的に「アートギャラリーホーム活動」を展開しています。

アートコミュニケーター 小林大悟氏による第3回アートプログラム「ステンシルの小箱作りワークショップ」を、瀬戸内の離島に住む画家の田嶋里菜氏と、香川県丸亀市にご協力いただき、チャームプレミア代々木初台にて開催しました。



アートコミュニケーターの小林大悟氏



画家の田嶋里菜氏

### ■「アートプログラム」について

アートギャラリーホーム事業は、「支援」「発信」「コミュニケーション（アートプログラム）」の3つの柱で構成されています。

弊社ではこれまでに延べ約1,500点に及ぶ優れた作品をホームに展示してまいりましたが、これらの制作者である若いアーティストへの継続した支援と、ご入居様様のウェルビーイング向上のために、アートプログラムを提供しております。

この取り組みは、いわゆる美術教室のようなレクリエーションの一つではなく、若いアーティストとご入居様様をつなぐアートを通じた「コミュニケーションプログラム」です。プログラムのなかで、アートを通じた心の動きや思いを言葉にし、他者との気持ちや考えを共有することが、ご入居様様の心と脳にポジティブな影響を与え、ウェルビーイングを構成するPERMA理論（※引用文献 Seligman, M. E. (2012). Flourish: A visionary new understanding of happiness and well-being. Atria Paperback.）の5つの要素を高めることが分かりました。私どもは、この作用がご入居様様のQOL向上に役立つと考えております。

プログラムの担い手として、活動当初より作品募集に参加されてきた画家の小林大悟氏をアートコミュニケーターとしてお迎えし、継続して実施しています。

今後も若いアーティストを巻き込み、様々な企画を提供してまいります。

## ■アートプログラム1回目「ステンシルの小箱作りワークショップ」制作会

プログラム1日目は制作会として、2月7日（火）チャームプレミア代々木初台にて開催しました。アートプログラム初の試みとして、講師の田嶋氏は香川県丸亀市よりzoomで参加しました。会場前方のスクリーンに映された瀬戸内の美しい海の景色をご覧になったご入居者様より、歓声が上がりました。予めカラフルに彩色された小箱に、讃岐型染めからヒントを得たステンシルの技法を用いて、ご入居者様が思い思いの色付けをされました。ステンシルの上に更に絵を描かれる方もおられ、オリジナリティーある小箱が完成しました。23名が参加され、銘菓を味わいながら和やかな雰囲気の中で楽しめました。



スクリーンに映った田嶋氏とご入居者様が会話される様子



色彩豊かなステンシルを施す



完成した小箱

## ■アートプログラム2回目「ステンシルの小箱作りワークショップ」鑑賞会

プログラム2日目は鑑賞会として、2月22日（水）に開催しました。

ご入居者様の制作されたすべての作品をライブラリーコーナーに展示しました。

午後のお茶の時間に合わせ少人数での鑑賞会が始まると、制作したステンシルの小箱を1つずつ鑑賞し、お互いの作品についての感想などを話されながら、コミュニケーターの小林氏との会話を楽しめました。

鑑賞後は、田嶋氏と丸亀市のご協力で集められた瀬戸内の貝殻とシーグラスを小箱に詰め、作品に仕上げました。

様々な色合いの美しい貝殻を目の前にされた瞬間に、ご入居者様のどなたもが童心にかえられたように明るい表情になられ、幼い日の夏の思い出を語られる方もおられました。

にぎやかな笑い声があちこちで聞かれ、熱心にお気に入りの貝殻を選ばれました。

単なる作品鑑賞ではなく、コミュニケーションのきっかけを作ることが本プログラムの目的だと感じたと講師からの感想もあり、若いアーティストにとっても学びのあるプログラムとなりました。



瀬戸内から送られた色とりどりの貝殻



鑑賞会を楽しめるご入居者様



作品展示の様子

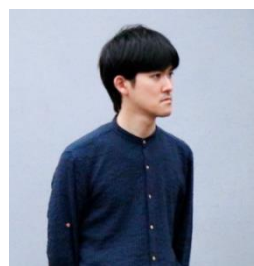
## ■作家紹介

### 小林 大悟

2014 多摩美術大学 美術学部 絵画学科日本画専攻卒業  
2017 アートコミュニケーター「とびらプロジェクト」三期修了

#### 主な展覧会・受賞

- 2023 アイヌの伝統・文化を題材にした絵本の原案 大賞  
2022 グループ展「たゆたまに、小石をひとつ」 アキバタマビ21  
2021 個展「（伝わらなさの、困難と魅力）。」 Hertz Art Lab  
「本の日」ブックカバー大賞 芸術新潮 編集長賞  
2020 個展「あらもの にこもの の だくだく」 日本茶喫茶/ギャラリー楽風  
個展「かしこの真似び（と、穴ぼこ）」 ギャラリー美の舎  
萱アートコンペティション2020 奨励賞  
2018 個展「ハレとケのダンス」 ギャラリー美の舎  
個展「あくびなみだでやけどする」 Japan Creative Arts Gallery



がらんどうの端っこ 2022年

### 田嶋 里菜

2016 多摩美術大学美術学部絵画学科 日本画専攻 卒業  
2019～ 香川県丸亀市の離島に移住し作家活動を行う

#### 主な展覧会・受賞

- 2022 個展「やわらかい日々」 丸亀 広島市民センター  
2021 個展 丸亀 秋寅の館  
個展「おもいで草のにおい」 丸亀 graine la rue  
2017 個展「優しい惑星の日常」 京橋 gallery b.tokyo  
2016 FACE2016 入選  
2014 第50回 神奈川県美術大賞展 入選



おもいで草のにおい 2021年

## ■「アートコミュニケーター」について

アートコミュニケーターとは、アートから生まれるコミュニケーションを大切にしながら、人と人、人と作品、人と場所をつなぎ、様々な価値観をもつ多様な人々を結びつける存在です。

2012年より始動した東京都美術館と東京藝術大学の連携事業「とびらプロジェクト」によって、現在多くのアートコミュニケーターが輩出されています。

目指すものは、アートによる社会への貢献です。

「成熟した社会」と言われる現代の日本において、今後取り組まなくてはならない社会的な課題は、多様性の尊重とそのネットワーク化の2つであると言われています。

一つは人々の価値観や文化背景の違いなどを尊重することであり、二つ目は個々人の生き方を孤立させず、社会の中で関係づけていくことです。

(出典：東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」)

チャーム・ケア・コーポレーションは、アートプログラムを介して、お客様の多様な価値観を大切にしながら魅力的な介護サービスを提供できるよう取り組んでまいります。

※本リリースに関する取り組みは、以下のSDGs目標に貢献しています。



当社は、企業理念に則り、事業を通じて「豊かで実りある高齢社会」づくりへの貢献を使命と考えております。

当社は、この使命を基礎として、事業活動を通じてSDGsに関連する取り組みを実施しており、今後もSDGsの目標達成に向けた活動に積極的に取り組んでまいります。

目標3 すべての人に健康と福祉を | 満たされるべき基本的人権

目標4 質の高い教育をみんなに | すべての課題解決の為に

**お問合せ・作品の応募はアートギャラリーホーム実行事務局までご連絡ください。**

東京本社内 アートギャラリーホーム実行事務局

担当：小原・菊水

MAIL：agh@charmcc.jp

## ■ 会社概要

名 称：株式会社 チャーム・ケア・コーポレーション

所 在 地：大阪市北区中之島3丁目6番32号 ダイビル本館19階

代 表 者：代表取締役会長 兼 社長 下村 隆彦

事業内容：「介護付有料老人ホーム」及び「住宅型有料老人ホーム」の運営ほか